

2024年度
八戸学院大学
健康医療学部 看護学科
総合型選抜 テーマ1

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かない。
- 2 筆記用具は黒色の鉛筆またはシャープペンシルを使用する。
- 3 問題冊子に印刷不鮮明、ページの落丁などがあるときは、手を挙げて監督者に伝える。
- 4 問題冊子の余白等は適宜利用してよい。
- 5 問題冊子は持ち帰ってよい。

少子化の要因と対策について

2022年に生まれた赤ちゃんの数（出生数）は前年比5.1%減の79万9728人で、1899年の統計開始以来初めて80万人を下回ったことが28日、厚生労働省の人口動態統計（速報値）で分かった。国内の外国人などを除き、日本在住の日本人だけに限れば77万人前後になるとみられる。政府機関の推計より10年ほど早いペースで少子化が進んでおり、この傾向が続けば、社会保障制度や国家財政の維持が厳しさを増すのは避けられない。

出生数の下落率は、2015年までの10年間は毎年平均1%ほどだったが、2016年以降は3%超に加速。同年に出生数が100万人を割ってから、わずか6年で2割減の80万人を下回り、底が抜けたようになっている。

最近の出生数低下はコロナ禍による婚姻数減少の影響もあるとされるが、それ以前に加速は始まった。人口問題に詳しい日本総研の藤波匠氏は「2015年までは非婚化が進む一方で、結婚した人は子を産むことが多かった。2016年以降は結婚した人も子を産まなくなってきた」と分析する。

藤波氏によると、2020年の既婚女性の出生率を表す「有配偶出生率」は2015年と比べ、35～39歳は横ばいだったが、34歳以下の世代は軒並み低下。特に20～29歳は顕著だった。

浮かび上がるのは、今の生活や将来に不安を感じ、子どもを持つことをためらう若い夫婦が増えている実態。藤波氏は「女性は賃金の低い非正規雇用が多く、男性も賃金下がっている。女性は働くことも家事や子育ても求められてきたが、頑張りも限界を超え『子どもを育てながら生活するのは自分には無理』『3人ほしかったけど1人だね』と悲観的になっている」と指摘する。

根本的な打開策は経済成長と賃金上昇としつつ、大学無償化や返済の必要がない奨学金の拡充など、高等教育の負担軽減の重要性に言及。「賃金が上がらない中で、子ども3人を大学に行かせるのは不可能という感じになっている。こんな社会をつくったのは政治の貧困だ」と強調する。

東京新聞 Tokyo Web 井上峻輔（2023年3月1日付 東京新聞朝刊）一部抜粋

この文章から読み取れる少子化の要因と対策について自分の考えを600字～800字で書きなさい。